

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 福井県勝山市立村岡小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒 911-0035
福井県勝山市郡町2丁目9-1
 E-mail : murokosyou@edu.city.katsuyama.fukui.jp
 Website : <http://www.city.katsuyama.fukui.jp/school/e-muroko/murokohp/H26muroko/indexH26.html>
 児童生徒数：男子 108 名 女子 108 名 合計 216 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) <3学年の実践> 村岡山博物館を作ろう (平成26年度からの活動)
学校の裏にある村岡山の歴史や成り立ちを調べて博物館を作り、地域の人に伝えてもっとよく知ってもらうことをめあてにして活動した。

・村岡山に登って、学習課題を見つける。

まず、分野別の課題を見つけるために登る。分野は、山の歴史、山のでき方、山の動植物の3つである。



・地域の専門家に聞く。



・発信の準備をする。



資料・模型作り

プレゼンテーション資料づくり

・発信 (発表)



文化祭で地域の人々に村岡山を紹介した。

・振り返りと今後の活動計画



(話し合いの結果)

- ・村岡山の行事をつくる
(クイズラリー・秋のどんぐりひろい・宝探し)
- ・村岡山の魅力をちらしやテレビで紹介する
- ・来年の親子行事でみんなに登る
- ・村岡山の模型を学校に展示してみんなに見てもらう
- ・夏のかち山ちょうちん登山など、お家の人と村岡山の行事に参加する

<活動による児童と教師の変容>

児童の変容

- ・村岡山への関心の高まりと持続
- ・主体的な学びの面白さを実感
- ・好評価による子どもの自己肯定感
- ・デジタルスキルの向上
- ・「大人に教える」ことの充実感

教師の変容

- ・コーディネーターとのやりとりの日常化
- ・外部人材の積極的活用
- ・授業を個々でなく、つながりで捉える視点
- ・様々な活動を有機的につなげる姿勢
- ・指導者から調整役への変化

(2) <4学年の実践> わくわく合宿(平成17年度から)

村岡地区かつやまっ子応援ネットワークが主催する宿泊体験学習に参加して地域との交流を深める学習である。



4日間、家族と離れて生活する体験である。お世話をしてくださる地域のボランティアの方々に挨拶をして、日常生活と同じように宿題をして、翌朝学校へ登校する。また、下校後は、ボ

ランティアの大学生や社会人の方とゲームをしたり、近隣のお宅でもらい湯をしたりして過ごす。

この活動で、地域の人や仲間との交流を通して、責任感や自主性、感謝の心などが芽生えてくる。

(3) <5学年の実践> 稲作体験学習(平成20年度から)



JAの協力の下、近くの水田をお借りして、稲作を体験する。できあがったお米は、給食に使用し、文化祭の炊き込みご飯として販売もしている。

勤労体験をして、農業の大変さと食の大切さを学んでいる。

(4) <6学年の実践> ミチノクフクジュソウ保全活動(平成20年度から)

NP0団体の小原エコプロジェクトの皆さんのご指導の下、希少植物ミチノクフクジュソウの保全活動を行っている。活動内容は、「春の開花状況を調査する」「秋の下草刈り」「保全用看板づくり」「文化祭での地域への発信」である。



今年度は、「花の中の温度測定」「はがきづくり」「看板づくり」「下草刈り」そして、文化祭でミチノクフクジュソウの様子を劇風に紹介し、守っていく大切さをアピールした。

(5) <1～6学年の実践> 赤とんぼ調査活動（平成24年度から活動）

勝山市は、秋になると赤とんぼがたくさん飛び交う地域であり、それが当たり前前に感じている地域の住民である。この活動は、その当たり前が実は地域の環境を守り、安全なお米の生産につながっていることを伝えていくことをめあてにしている。



ヤゴの放流



ヤゴ殻の採取



赤とんぼにマーキング



赤とんぼの卵観察とマーク探し



文化祭で発信

赤とんぼ生態調査活動の課題が以下のようにあげられる。

- ①赤とんぼの調査として飛行ルートや羽化数の調査になり、環境教育、ESDとしての意識がなくなりつつある。
- ②教師主導の活動になり、児童に目的を持たせた主体的活動になっていない。これからは、「赤とんぼと米作り」「赤とんぼと環境」「赤とんぼとジオパーク」などのテーマを立てて、めあてを決めた活動を目指していきたい。

(6) <1～6学年の実践>ESD パスポート（平成26年度から）

村岡小学校で当たり前に取り組まれているボランティア活動が、持続可能な発展のための活動であることを児童に知らせ、自信を持つと同時に、より主体的な活動になることをねらいとして取り組んだ。次の点が課題である。

- ① 児童の主体的な活動にするには、「これが何のためになるの？」という問いかけが必要である。
- ② 授業の改善とともに、主体的な問いかけを生む活動としてテーマを設定し取り組んでいきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）